

3 章 発泡スチロールを用いた 超軽量盛土工

3.1 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

3章 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

3.1 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

1. 適用

超軽量材としての発泡スチロールを盛土、擁壁および橋台等の抗土圧構造物の裏込め等に使用する発泡スチロール工を人力で施工する場合に適用する。

2. 数量算出項目

発泡スチロール設置、発泡スチロール（材料費）、緊結金具（材料費）、コンクリート床版、支柱結合アンカー（材料費）、支柱設置、支柱（材料費）、壁面材設置、壁面材（材料費）、裏込砕石（軽量盛土）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、雑工種、生コンクリート規格、養生工、圧送管延長距離、床板厚さ、溶接金網規格、鉄筋量、盛土高、附帯工の割合、砕石の種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

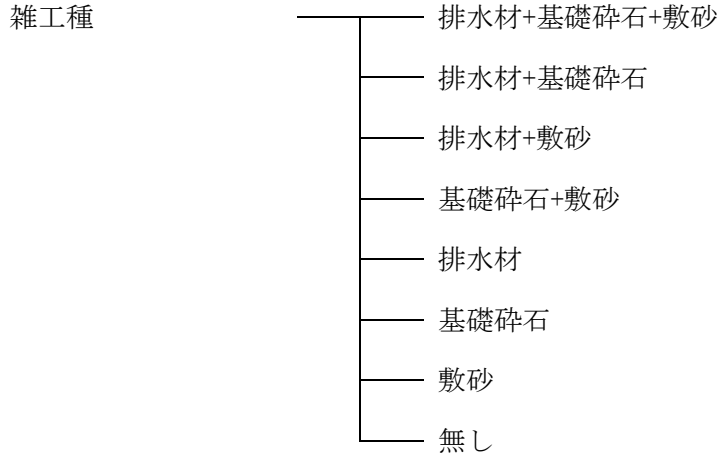
区分 項目	3次元 モデル	属性情報													
		規格	雑工種	生コンクリート規格	養生工	圧送管延長距離	床板厚さ	溶接金網規格	鉄筋量	盛土高	附帯工の割合	砕石の種類	単位	数量	備考
発泡スチロール設置	A	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ³		
発泡スチロール（材料費）	A	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ³		
緊結金具（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	個		
コンクリート床版	A	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	m ³		
支柱結合アンカー（材料費）	A	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ³		
支柱設置	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
支柱（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
壁面材設置	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ²		
壁面材（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ²		
裏込砕石（軽量盛土）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	m ³		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

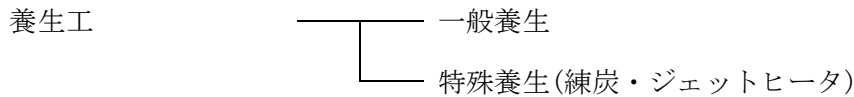
- 注) 1. 軽量盛土（発泡スチロール）の排水材（不織布：厚さ10mm以下）、基礎砕石（敷均し厚20cm以下）、敷砂（敷均し厚10cm以下）を標準としており、これにより難しい場合については別途考慮する。
2. 雑工種における材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。
3. 発泡スチロールブロックの固定のためにL型ピンの設置が必要な場合は別途考慮する。

4. コンクリート床版にグラウンドアンカー等を結合する場合は別途考慮する。
5. ベースプレート式H型鋼支柱(H型鋼規格はH300mm×300mm 以下、長さ 9 m以下)を標準としており、これにより難しい場合については別途考慮する。
6. 壁面材 1 枚当りの規格は、長さ 2.5m 以下、幅 0.6m 以下、重量 170kg 以下を標準としており、これにより難しい場合については別途考慮する。

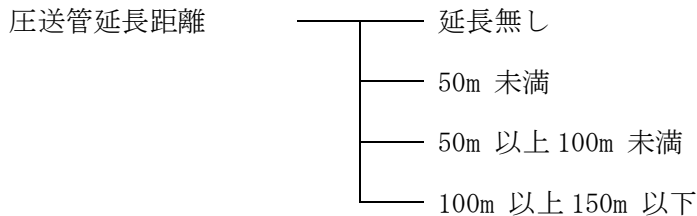
(2) 発泡スチロール設置の雑工種による区分は、以下のとおりとする。



(3) コンクリート床版の養生工による区分は、以下のとおりとする。



(4) コンクリート床版の生コンクリート規格による区分は、以下のとおりとする。

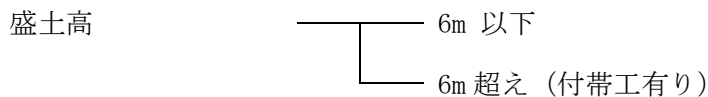


注) 圧送管延長距離区分は、作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合に、超えた部分の延長距離を該当する区分から選択する。

(5) コンクリート床版の床版厚さによる区分は、以下のとおりとする。



(6) 裏込碎石(軽量盛土)の盛土高による区分は、以下のとおりとする。



(7) 裏込碎石（軽量盛土）の付帯工の割合による区分は、以下のとおりとする。

付帯工の割合	0.1 以下
	0.1 を超え 0.2 以下
	0.2 を超え 0.3 以下
	0.3 を超え 0.4 以下
	0.4 を超え 0.5 以下
	0.5 を超え 0.6 以下
	0.6 を超え 0.7 以下
	0.7 を超え 0.8 以下
	0.8 を超え 0.9 以下
	0.9 を超え 1.0 以下

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
コンクリート (基礎コンクリート部)	m ³		「第1編（共通編）4. 1 コンクリート工」参照
型枠 (基礎コンクリート部)	m ²		「第1編（共通編）4. 2 型枠工」参照
鉄筋工 (基礎コンクリート部)	t		「第1編（共通編）4. 3. 1 鉄筋工」参照
基礎材 (基礎コンクリート部)	m ²		「第1編（共通編）9. 1 基礎・裏込碎石工、基礎・裏込栗石工」参照

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 発泡スチロール（材料費）は、ロス率を以下とし体積（m³）を算出する。

項目	ロス率
発泡スチロール	+ 0.04

(2) 緊結金具（材料費）の発泡スチロールm³当りの使用量は、ロス率を含み以下とし個数を算出する。

項目	数量
緊結金具	2.3

(3) 支柱結合アンカー（材料費）は、規格ごとにコンクリート床板体積当りの必要本数（本/m³）を算出する。

(4) 支柱（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。

(5) 壁面材（材料費）は、壁面固定金具を含み、規格ごとに壁面面積当りの必要数量（枚/m²及び個/m²）を算出する。

(6) 裏込碎石（軽量盛土）は、設計数量を算出する。

(7) 付帯工の割合は下式にて算出する。

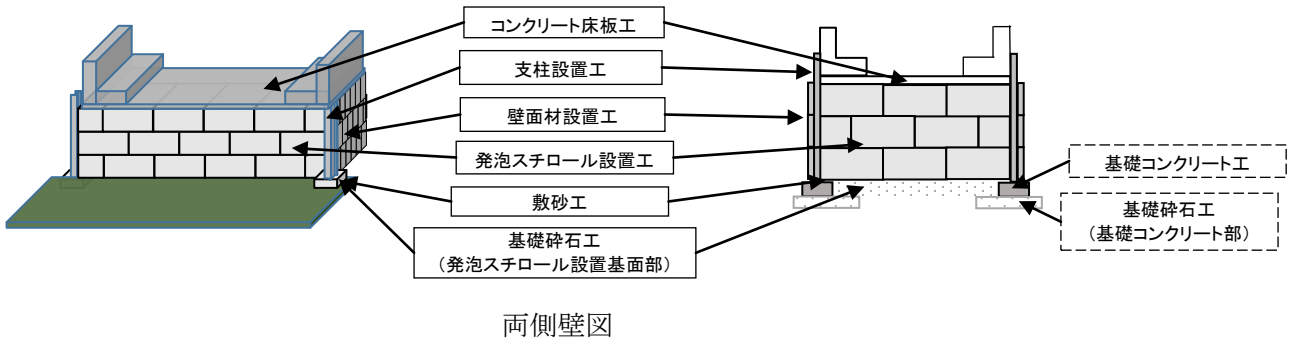
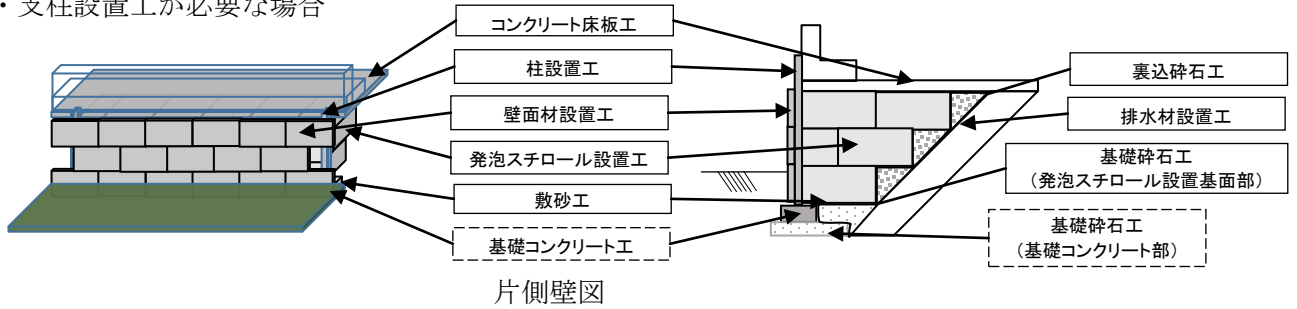
$$\text{付帯工の割合} = \frac{\text{裏込砕石工の盛土高 6 m を超える部分の設計量 (m}^3\text{)}}{\text{裏込砕石工全体の設計量 (m}^3\text{)}}$$

設計量(m³)：ロスを含まない数量

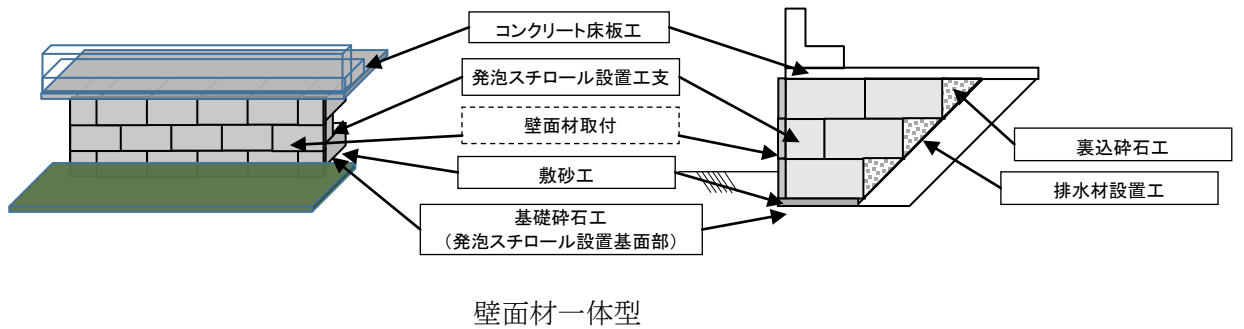
5. 参考図

5-1. 壁面材有り

- ・支柱設置工が必要な場合



- ・支柱設置工が必要無い場合



5-2. 壁面材無し

